

「ハボちゃん作文」の書き方

「ハボちゃん作文」は4コママンガを読み、その話の筋を書くだけではなく、マンガに書かれていないことも言語化する作文だ。

以下の3点の力を養うこととなさい。

- 1)文章力（簡潔に的確に書く。文章構成を工夫して書く。時間内に書く。）
- 2)洞察力（マンガに書かれていない「おもしろさ」を洞察する。）
- 3)表現力（正しく原稿用紙を使う。文字を丁寧に書く。漢字を適切に使う。）

書き方

詳しく細かく書くのではなく、どんなことが描かれてあるのかを書く。

目安はだいたい160～190字以内で書く。あまり長くならないこと。

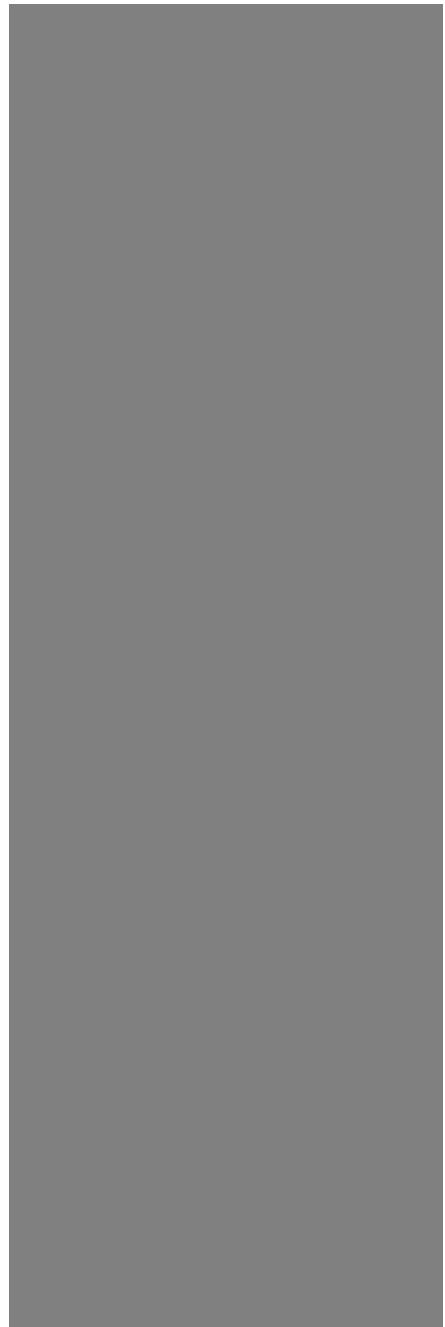
はじめの一文はできるだけ短く単純に終わらせる。

直接話法を間接話法で書く。言った言葉そのまま書くのではなく、言った内容をまとめて書く。

1文につき1行だらだらと文を長くせしない。

マンガの表情から心情を読みとつて理由や原因と結び付けて説明する。
行動や表情の変化があったら、その理由や原因を「実は」「それは」「なぜなら」などの言葉を使い説明する。

落ちやおもしろさを説明する。
書き上げたら必ず読み直し、推敲する。誤字・脱字や、書き忘れがあったら、原稿用紙の推敲行に書き入れる。
できれば、マンガを一度読んで、頭に入れてからマンガを見ないで書いてみよう。



小学校の図工の時間。先生は粘土の塊を前にして「これは猫には見えないから泥棒にして銷ぼすよ」と聞く。なぜなら、図工の先生は「子どもたちは、ヒゲを付けたりじりがけたりすればよ」と提案した。

校長先生は廊下でその様子を見て授業内容に感心していた。しかし図工の先生の言葉を聞いてずつ口をつぶしてしまった。なぜなら、図工の先生は「ね」このタイトルを付けねば簡単だと種明かしをしたからだ。（185字）